

女子学生の進路指導におけるロールモデルの提示について

山梨大学工学部 正会員 岡村 美好

1. はじめに 山梨大学工学部土木環境系クラス（以下梨大土木環境系クラス）では、1977年に最初の女子学生が入学してから2001年までの間に100名を超える女子学生が卒業した。この度、これらの女性卒業生を対象に卒業後の動向に関するアンケート調査を実施するとともに、山梨大学工学部土木環境工学科に在籍する学生に対して「土木環境系女性技術者に関する研修会」を開催してアンケート結果の報告を行った。

これまで、梨大土木環境系クラスでは、3年生を対象とした進路指導に関する研修会を毎年開催し、学生達が卒業生のお話を聞く機会を設けてきた。しかし、女性卒業生がこの研修会に参加したことはなく、このようにアンケート結果という間接的な形であっても身近な土木環境系女性技術者の姿が学生達に提示されたのは、今回が初めてのことであった。研修会参加者に対するアンケート結果は、進路に対する参加者達の意識が変化したことを示しており、学生達がロールモデルとして等身大の土木環境系女性技術者の姿を知ったことの意義は大きいと考えられる。

そこで、土木環境系女性技術者のロールモデルとなった女性卒業生の動向に関するアンケート結果、および土木環境系女性技術者に関する研修会参加者のアンケート結果の概要について報告する。

2. 女性卒業生の動向に関するアンケート結果 アンケート調査は、2000年3月までの梨大土木環境系クラスの女性卒業生を対象に行った。住所不明者と2000年卒の進学者を除いた89名にアンケート用紙を郵送して、45名から回答を得た（回収率50.6%）。質問内容は、仕事の状況、結婚・出産・育児を中心とした生活の状況、職場での労働環境等に関するもので、選択式で回答するものとした。また、将来の展望や女子学生や女性技術者へのアドバイスについて自由な記述をお願いした。

図-1は、梨大土木環境系クラスの女性卒業生の数とアンケート回収数を卒業年ごとに示したものである。

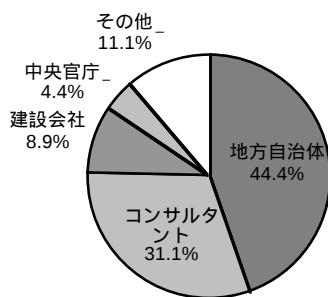
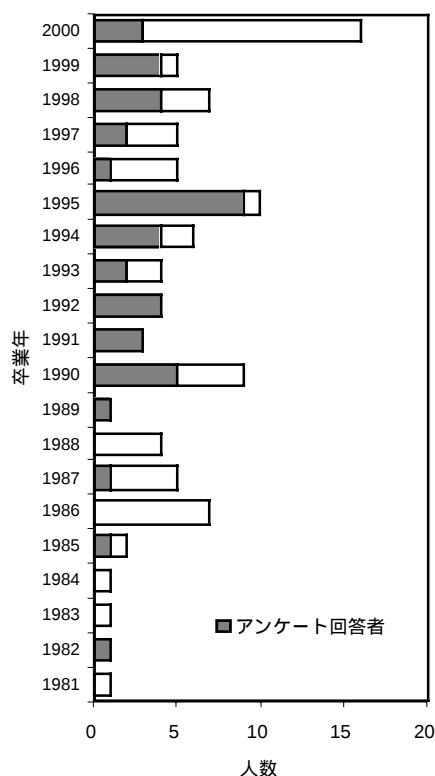


図-2 勤務先

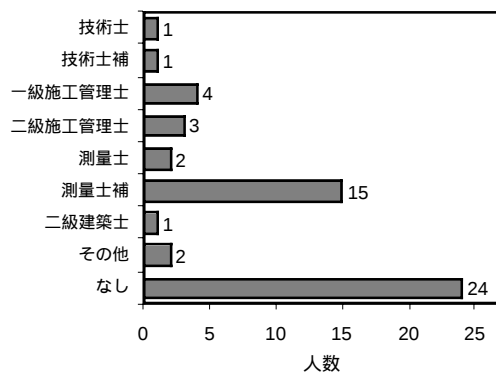


図-3 取得資格数

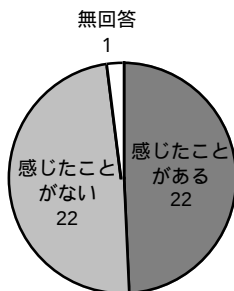


図-4 職場での男女差別

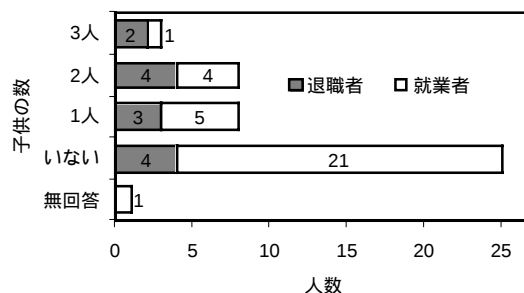


図-5 子供の数と退職者・就業者数

キーワード：進路指導，女子学生，女性技術者，ロールモデル

連絡先：〒400-8511 山梨県甲府市武田4-3-11 山梨大学工学部土木環境工学科

TEL：055-220-8520 FAX：055-220-8773

梨大土木環境系クラスは、最初の女子学生が入学した 1977 年には土木工学科と環境整備工学科（定員各 60 名）の 2 学科であり、1993 年にこの 2 学科が統合されて土木環境工学科（定員 110 名）となっている。

図-2～5 にアンケート結果の一部を示す。アンケート回答者のなかで資格取得者の平均資格数は 1.35，最多資格数は 4 であった。職場での男女差別については、感じたことがある人と感じたことのない人の数は同数で、「優遇されている」との回答もあった。また、退職者は 13 人（約 33%）で、その理由のほとんどは出産・育児・夫の転勤であった。さらに、自由記述欄からは、未婚者においては将来の結婚や妊娠・育児に不安を感じながら男性と同等に仕事に取り組んでいる姿が、また、既婚者においては仕事と家庭の両立に悩みながら懸命に仕事を続けようとしている姿が浮かび上がってきた。

3. 土木環境系女性技術者に関する研修会参加女子学生のアンケート結果 土木環境系女性技術者に関する研修会では、2. に示したアンケート結果をまとめた資料を配付するとともにその概要説明を行った。また、研修会の感想等を把握するために、研修会参加者に対してアンケート調査を行った。

その結果の一部を図-6～8 に示す。研修会の参加者は女子学生 27 名で、土木環境工学科および土木環境工学専攻に在籍する女子学生 57 名の 47% であった。参加者のほとんどから、「これからも研修会を開催して欲しい」、「女性卒業生の話を聞きたい」という回答が寄せられた。また、女性卒業生に対するアンケート結果の感想を自由に記述してもらったところ、「同じ女性が頑張っているのを知って私も頑張ってみようと思った」、「子育てと仕事を両立して頑張っている人の話を聞き、心強さを感じた」、「身近に土木系の先輩はいるが、男性の先輩なので、仕事の面でも人間関係でも受け止め方は違うはずだから、話を聞いても全てをそのまま信じる気にはなれなかった」、「働いていく中でどういう感じになるのか全く未知だが、アンケートを通して少しわかった気がした」、「会社を選ぶときに女性に対する対応も考えるということは、今まであまり気にかけていなかったが、それを考慮に入れることは重要なことだと気がついた」、「良い面も悪い面も現実のこととして受けとめることができたし、覚悟することができた」等の感想が寄せられた。

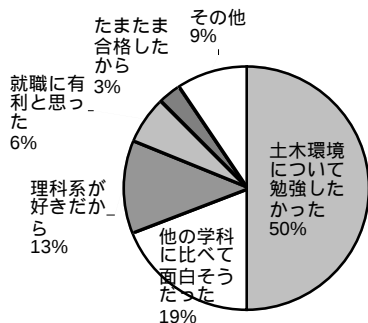


図-6 進学先に土木環境工学科を選んだ理由

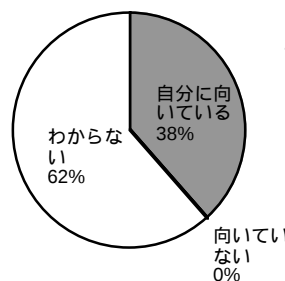


図-7 土木環境工学科は自分に向いているか

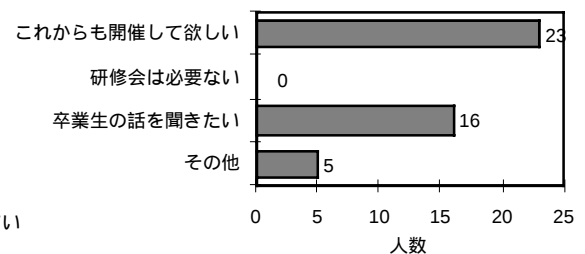


図-8 研修会の感想

4. まとめ ロールモデルとは「役割のモデル」、「手本となるような人物」の意味である。ロールモデルの存在は、将来の自分の姿をシミュレーションすることを容易にするだけでなく、将来の目標が設定されることから、個人の生き方に大きな影響を与えられている。今回の研修会およびアンケート調査により、身近な女性卒業生達の姿がロールモデルとして提示されたことによって女子学生達の進路に対する意識が大きく変化したこと、また、女子学生達もロールモデルとしての女性技術者の存在を必要としていることが明らかになった。

本報告のような試みが、女子学生達の生き方に与える影響を明らかにするには年月をかけた追跡調査が必要であろう。しかし、これが各女子学生にとって適切な進路決定の一助となり、就業を継続できる女性技術者の増加に繋がれば幸いである。

謝 辞 アンケートにご協力頂いた女性卒業生・女子学生の皆様に心より感謝申し上げます。

参考文献 1) 昌子住江：土木系学科に在籍する女子学生の現状と教育上の課題について，土木学会第 51 回年次学術講演会講演概要集，共通セッション，CS-115，1996 年。 2) 土木学会：女性と土木技術者，土木学会誌別冊増刊，Vol.81-11，1996 年。